

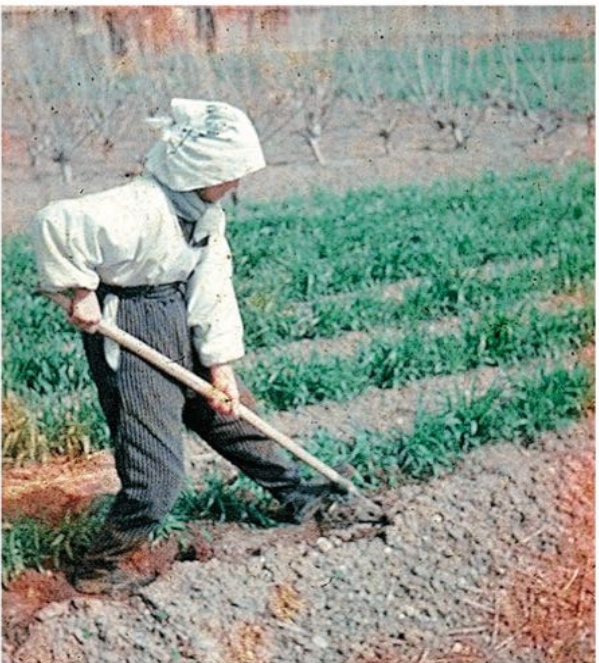
ていねいな暮らしのあつたころ

佐野二彦の撮った伊深の里山

促すためです。

左の写真は「麦踏み」といって麦を丈夫に育てるために、わざと株を傷つける作業の様子です。また霜柱で浮いた土を押さえるためにも行いました。「麦踏み」は、朝の霜が解けない固いうちに行いました。

4月、5月になると株の間に雑草が生えてくるため、株をかき分けて丁寧にむしりました。そして6月半ばに収穫を迎えたのです。



「麦の土掛け」 昭和38年3月28日撮影

「麦作」

昭和30年代ごろまでは、白米に麦をまぜて炊いた麦飯が主食としてよく食べられました。

秋の収穫が終わると、11月ごろに稲の株を取った田や畑に麦をまきました。種をまくと霜で土があがらないように、細かく刻んだ稲わらを掛けて発芽を待ちました。

右の写真は、3月に育ってきた株に土掛けの作業をしているところです。これは株の枝分かれを



「麦踏み」 昭和38年3月22日撮影